

上京 史蹟と文化

2004 VOL. 27



美を創る



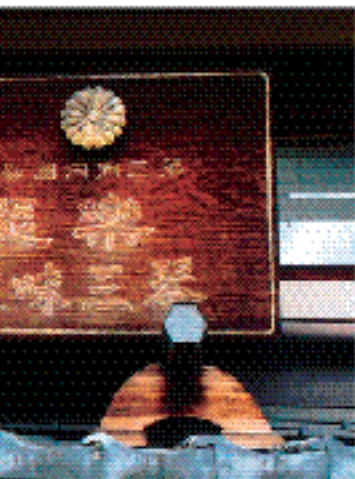
京都府庁の周辺には昔ながらの町家が数多く残り、その奥では京都らしい技術をもつ生業なまごいが営まれている。ここ小篠家の間口の広い町家も掲げられた看板を見て、はじめてそのお仕事を知ることができる。「奏器絃 琴三味線結司 小篠長兵衛」―三味線や琴、琵琶などあらゆる邦楽器の絃を専末の嘉永二年(一八四九)から百五十余年にわたって作りつづけておられる。小篠長兵衛家は明暦年間(一六五五)に伏見下鳥羽で染物業を営んだのを初代とし、六代目からは現在地で奏器絃の製造を創め、小篠洋之氏で九代目を数える。鳥羽屋の歴史も創業の地に因んだものといふ。



邦楽器絃製作

小篠洋之

京都市上京区油小路通下立売下る





邦楽器の絃は生糸が原料であるが、近年では七倍以上の強靱性をもつナイロン原糸が普及しており、品質も生糸製の絃に匹敵するという。しかし、生糸は音色もやわらかく、重要無形文化財の歌麩伎・文楽・雅楽などの芸能では必要不可欠なものとされている。

原料となる生糸は滋賀県木之本町の産のマリリン(縹色)の多い春蚕の生糸からつくられ、それに小橋さんの工場で強い撚りと弾性伸張が加えられて製品となる。①繰糸、②合糸、③水浸、④下撚・上撚、⑤伸張・撚上げ、⑥自然乾燥・検査、⑦巻取(木製板)、⑧染色・糊付、⑨糸張・自然乾燥、⑩伸張・検査、⑪定寸法切断、⑫糸巻・包装仕上という十二工程を経て完成される。ナイロン原料の絃も同様の工程であるが、熟処理が加えられるという。また邦楽器の絃と二口についても雅楽絃・古代絃・琵琶絃・箏の絃・三絃などがあって、その種類も三十以上になり、さらに太さ



の異なる複数の絃を必要とするのだから、文化財の選定保存技術「邦楽器糸製作」の保持者に認定されており、当然のことといえよう。

洋之氏はそれまでの制作工程の中に省力化、機械化も試み、手仕事の独特な代替えとして張り撚り糸機を導入し、さらに手回し式の動力を足踏み式からモーター式、現在はデジタル式へと改良することによって、昔にわたらない均質な糸を完成されるに至った。

現在では子胤の敏之氏が家業と技術を受けつぎ、文化財に指定されている古典芸能の音の美を創りつづけているのである。

長者町

上京区内には「長者町」という

横の通りが、上・中・下の三本あり
ます。周辺の通りからすると、

あまり重要視されていないように
も思えます。それもそのはず、東

は京都御苑に沿った烏丸通に始ま
り、その終点は千本通の西で迷路
のようになって消えてしまいます。

上長者町通は平安京の土御門大
路、下長者町通は鷹司

小路に当り、二町北の

一条大路が平安京の北

端となります。都城の

官庁街である大内裏は

もともと八町四方の正

方形で、南北を二条大
路と一条大路に挟まれ
ていました。その四面
には三つづつの門があっ
て宮城十二門といい、
有力氏族に造営と警衛



上京の史蹟シリーズ

大路おうじ 小路こうじ

(その9)

が課せられ、門の名称にもなっ
ていました。ところが平城京では大
内裏が北へ二町拡張されて南北十
町となります。それが長岡京や平
安京まで踏襲されたかは諸説があ
り、平安京造営当初は八町四方で
あったのか、北へ二町広げられて
いたのか、さらに平安京の都城も
北へ二町広がつていたのか、諸説
紛々としています。いずれにして
も、都城の北端は北へ二町広げら
れ、そこが一条大路（北京極大路）
となりました。そのため大内裏

御門大路や鷹司小路は今の京都御
苑を東へ抜けて東京極大路まで続
いていました。土御門大路は発生
の由来からか、大内裏の建物の間
を東西に突き抜けていたのですが、
そのほかの二条大路までの大路小
路は大内裏の建物にさえぎられて
いました。現在の三つの長者町通
は、平安京の左京北辺の二坊から
四坊、一条の二坊から四坊に当た
ります。大宮通より西は大内裏に
なりませので、宮殿や官庁が立ち
並び一帯でした。今の長者町の西
方が迷路のようになってるのは、
中世に大内裏荒廃後の内野であっ
たからでしょう。

かに、北方にもう一つ門が必要に
なりました。それが上東門と上西
門で、他の十二門のような朱塗瓦
葺の壮大な門でなく、土塀をくり
抜いて扉をつけた簡易な門であっ
たようです。そのため土の門
土御門と呼ばれ、それが大路の名
称となってゆきました。大内裏の
東・南・西の三面の門の名称も大
路の名となるところから、土御門
大路というようになりました。土

烏丸通下長者町角の京都ガーデ
ンパレスの入口に「土御門内裏」
の石碑が見られます。この表示の
通り、この周辺には「土御門」を
名乗る邸宅が平安時代以来、多数
ありました。ということは、一条





院をはじめ高級住宅地として栄えたところなのです。土御門殿は里内裏ぢりとなるが多かったところで、里内裏とは天皇が臨時に母方の里、つまり外祖父の邸を内裏としたところをいいます。災害や穢れ、方違などの避難先でもあったのです。

天皇の住居である内裏は、鎌倉時代の承久元年（一一一九）までに十五回も火災に遭遇し、その再建中の安貞元年（一二二七）四月に罹災したのを最後に再建を断念するところとなりました。その後は土御門殿、閑院殿、富小路殿などを内裏としましたが、鎌倉時代末期の元弘二年（一一三三）に持明院統（北朝）の光厳天皇の即位により東洞院土御門殿に固定しま

す。この地点が今の京都御所の紫宸殿周辺に当たります。明德三年（二三九二）、南北朝の合一により、里内裏から恒久的な皇居に定められました。室町時代を通じて規模を拡大し、さらに江戸時代には周囲の公家町の集住もあつて、今の京都御苑の範囲に拡張されてきました。



平安時代には高級住宅地として栄えたこの一帯も、室町時代の応仁の乱によつて荒廃します。乱後の復興により「新在家しんざいか」と称するようになります。新町通今出川上るに「元新在家町」がありますが、ここはもともと羽二重の産地で、

応仁の乱後、人家が建て連ねたことによつて新在家と称しましたが、ますます人口が増えてきたことによつて、今の上長者町烏丸のあたりに転居し、新在家または今在家と名づけたといつ伝えもあります。

上長者町通の周辺には、北新在家町や南新在家町、今新在家町といった町名が残っています。安土桃山時代の天正年間（一五七三～一五九二）になると豊臣秀吉の天下統一により都市経済が発達します。新在家には貨幣の両替商などの金融業者が営業するようになって富裕の地といわれ、長者町の名ができたといえます。

烏丸通西側の上長者町と下長者の間にはKBS京都会馆と京都ガーデンパレスがありますが、幕末に

は水戸徳川屋敷があり、その周辺は今の京都御苑の公家町と一体化していました。上長者町上るは醍醐家、下長者町上るは中院家の邸でした。

上長者町通を烏丸から西へ歩いてみましょう。現在では堀川まで何の変哲もない裏道といった感じですが、実際には名所旧蹟といえるようなところは全くありません。しかし町名をたどつてみると由緒深いものがあります。烏丸西入の元浄花院町は民家が二軒あるだけです。天正年間に寺町広小路上へ移つた清浄華院しんじやうけいんの旧地でした。室町西入の元土御門町、新町西入の土御門町は、いずれも上長者町通の古名である土御門大路を受けついでいます。『今昔物語』に「晴



明が家は土御門よりは北、西洞院よりは東」とあつて陰陽家の安倍清明の家があつた場所と推定されており、清明の子孫が土御門の姓を称したのも、その由縁とされています。その場所は京都ブライトンホテルのあたりでしょうか。

やがて堀川に架かる上長者町橋にたどりつきませんが、不思議なことに堀川通を横断できません。今の堀川通は昭和二十年の終戦直前空襲による延焼を防ぐ火除地として、堀川の右岸から西へ五十メートル幅の住家を取毀しました。その時の西堀川通は堀川の右岸まで住家が密集し、今の堀川通の中央やや東に細い道があつたのです。ところどころで道路が直進せずに喰い違つのは、京都の市街地の通例で、広い道を民有地に取りこんで行つた名残りといえるでしょう。

上長者町通はここで三十メートルほど南へずれて西進します。黒門通の辻の南に北小大門町、さら

にあります。ここは聚楽第の外廓の通用門である小大門であつたところです。このあたりは聚楽第に由来する町名が多く見られます。聚楽第は豊臣秀吉が自らの権力を誇示するために造営し、天正十六年（一五八八）に後陽成天皇を迎えて、諸侯に忠誠を誓わせましたが、そこに住んだ養子秀次を謀反の疑いで追放したあと、徹底的に破却を命じます。そのために全貌を知ることがもとより、その範囲さえ諸説が入り乱れています。近年、破却されたことを示す遺跡が発見されつつありますが、残された町名をもって聚楽第研究が進められてきたのです。東は大宮、西は浄福寺または本本、北は一条、南は下立売というのが一般的な説とされてきました。

さて、上長者町通は下長者町通とともに聚楽第による町名の多いところですが、また当時居住した武將の名に因む町名もあります。主なものをたずねてみましょう。大宮通の辻より南一帯を東堀町といいますが、これは明かに東の外濠です。この町内に「梅雨の井」が残っています。この付近は低地であつたためか梅雨の終りにはこの井戸の水が溢れる、その水が流れて行つたのが出水通だといわれています。ここには八雲神社が祀られていましたが廃絶し、その跡地がマンションになるといので、地元では「梅雨の井」を守るための大きな保存運動も起きました。幸いにもその跡地は残されましたが今も荒地と化しています。松屋町通から裏門通の付近にも、洲浜東町・洲浜町・洲浜池町があります。いずれも聚楽第にあつた洲浜池によるもので、池畔に洲浜を作る広大な庭であつたのでしょう。さらにその西には下山里町や山里町があつて、山里の景を庭園にしたという聚楽第の景物を偲ばせてくれます。

薬 匠

本 玉 寿 軒

〒602-8435 京都市上京区今出川大宮東入
TEL (075) 441-0319・414-0319

新・古茶道美術品

清昌堂

やました

京都店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル
〒602- TEL (075) 431-1366
0061 FAX (075) 431-1370

東京店・東京都新宿区市ヶ谷甲良町1-8
〒162- TEL (03) 5261-4566
0856 FAX (03) 3235-5677

通に新柳馬場頭町、下長者町通の新御幸町の二つの町名です。これと連想されるのは左京区新洞学区の町名です、仁王門通を挟んで南北に、同じような「新」のつく町名があるのです。これは宝永五年（一七〇八）の大火で京都が焼野原となったあと、公家町の南に接する町家を鴨川の東へ移転させ、その跡地を公家町の拡張に当てたのでした。榎木町から丸太町の間の町には「新」の字を頭につけたのですが、「新御幸町」だけがないので、よく不審がられます。これは宝永の大火後、この町のみが現在の地へ移されたと伝えていきます。ところが「新柳馬場頭町」は正保年間（一六四四〜四八）に柳馬場榎木町上るの地を皇宮地拡張のため、耕地であった地に移しました。その縁をもって近くの新御幸町も移転して来たのではないのでしょうか。

千本通を越えると突き当りは五番町、数多くあった西陣の映画館

で残っている一つに突き当たります。このあたりは西陣織工業の華やかな頃、京都でも有数の歓楽街でした。その北の道は仁和寺街道で西陣から立本寺の前を経て御室に至る街道につながります。上長者町通は一応ここで終わりになります。



下長者町通の西端も五番町や六番町で突き当たります。そこから北へ少しずつ喰い遠いながら御前通まで続きます。しかし、このあ



たりは特に取り上げるところもありません。千本通からは一直線に東へ延びて堀川に至ります。大宮通までは大内裏の中であり、内裏の北側には西から宮中の掃除・設営にあたる掃部寮、装束等の調達にあたる縫殿寮、装束や調度品を納める内蔵寮といった内裏関係の役所、さらに東には梨本、内裏の警固にあたる左近衛府の建物がありました。これらの建物の北側には上東門と上西門をつなぐ幅十丈の土御門大路につながる道路があり、その北の一条大路までの間には大蔵や率分蔵など大蔵省の倉庫が群立していました。二町分拡張された内裏の部分は、このように利用されていたのです。

大宮通までは聚楽第の域内でもありました。付近に天稗町・天稗丸町・東天稗町・西天稗町・稗口町があるのは、聚楽第の天稗堀があったことに由来したのです。藤五郎則秀の住居があったところと伝

たりは特に取り上げるところもありません。千本通からは一直線に東へ延びて堀川に至ります。大宮通までは大内裏の中であり、内裏の北側には西から宮中の掃除・設営にあたる掃部寮、装束等の調達にあたる縫殿寮、装束や調度品を納める内蔵寮といった内裏関係の役所、さらに東には梨本、内裏の警固にあたる左近衛府の建物がありました。これらの建物の北側には上東門と上西門をつなぐ幅十丈の土御門大路につながる道路があり、その北の一条大路までの間には大蔵や率分蔵など大蔵省の倉庫が群立していました。二町分拡張された内裏の部分は、このように利用されていたのです。

いちい 点一 会

和光印刷株式会社

〒602-0012 京都市上京区高島通上柳町430
TEL.075-441-9400 FAX.075-441-4952

—いつも新しい感動を—

京都御所西、真珠の池の南に建つ新感覚の高級ホテル。自然の恵みと最新の設備が調和し、やわらかな自然光がよりそくアトリのムード。7つの多様なレストラン＆バーで、ブライダルに合わせた様々なサービスをお届けします。

【新設】14階
 (1)ウェディングホール
 (2)宴会ホール
 (3)会議室
 (4)ラウンジ
 (5)バー
 (6)レストラン
 (7)カフェ

京都ブライトンホテル
 〒602-0011 京都市上京区新町中町2丁目(御所西)
 TEL.075-441-4411(夜) FAX.075-441-4288
 ブライトンホテルズグループ
<http://www.kyotobrightonhotels.co.jp/>

えています。

堀川に架かる下長者町橋を渡ると急に広い道路になります。これは東堀川から烏丸までの北側が終戦直前の強制疎開によって拡張されたからなのです。南側には京都府庁などの官公庁や護王神社などがあつたために北側が犠牲になったのでしよう。ところが下長者町橋の上に立って東西を眺めると、南側を拡張したように見えますが、ここも上長者町通と同じく堀川で喰い違っていたのです。さらに下長者町橋の下を見ると、下流側の橋台は石積が残っていますが、上流側はコンクリート製になっています。つまり、この部分が拡張されたわけです。

広げられた下長者通の南側は官



公庁街になります。小川通との東南角、近畿農政局の植込みの中、大正六年に京都市教育会によって立てられた「茶屋四郎次郎邸址」の石標があります。茶屋家は伏見桃山時代から江戸時代にかけて活躍した京都の政商で、初代の四郎次郎は徳川家康の側近の商人として仕え、三方ヶ原の戦をはじめ長篠の戦、長久手の戦、小田原の戦などには甲冑を着用して実戦に参加し手柄を立てています。その広大な屋敷は江戸時代までこの一帯にありました。今の京都府庁などもその故地でした。

官庁街を過ぎると新町通あたりから古い住宅も見られ、中には明治時代の京都の先駆者であった浜岡光哲の旧居なども残っています。烏丸通との南角には護王神社が鎮座します。祭神の和気清麻呂は桓武天皇の下で平安京の地を選び、その造営に尽くした京都の恩人であり、その前には天皇の位を得ようとした道鏡の野望をくじいたな



ど「護王」の神号にふさわしい神として崇敬されています。道鏡によって大隅へ流される途中、猪によって守られた故事により、境内には猪の石像があります。



中長者町通

二つの上・下の長者通の間に、

室町から油小路まで中長者町通があります。ひっそりとした京都らしい町並みには、重要無形文化財保持者の人形作家が住わっていたり、御所や公家に入りました子孫の装束店、昔ながらの店構えと倉を並べた醤油店など、思わぬところに古き京都を見出すことのできる町です。





町家 山中油店

京都市上京区下立先通智恵光院西入

このあたりは平安京の大内裏や聚楽第の跡地であった。高低差の大きい土地で坂道も多い。その中を東西に真直ぐのびる下立先通は西ノ京から西へ続く街道筋でもあった。下立先通の北側で目をひくのは、ここ山中油店である。広い開口に店や倉が昔ながらの姿を見せている。

店に入って由来をお聞きすると、初代山中平兵衛が、江戸時代後期、文政年間（一八一八〜一八二九）に油の専門店を開いてより二百年近く営業を続けられ、現当主の山中平三氏は五代目になるといふ老舗である。

表構えは創業当時の姿をほぼせる。中は近代的な事務機械が置かれていても、決して違和感がない。それは山中家代々の住居を愛する心掛けなのだろうか。職住一体の生活をなさっているところから住空間に立ち入ることははばかられるが、その片鱗を見せていただいただけでも、扉や入り口の提灯箱、拭き込まれた柱や建具など、大切に護りつづけられた誇りがうかがわれた。

最近、南向かいにある借家を「京・町家文化館」として活用されている。築九十年の二戸建の町家の一軒を復原し、往時の席

民的な暮らしを思い返してみようという企てもなされている。へっついこの棟で暮らった壁や柱の残る通り庭、それに沿った畳敷の部屋、いかにも風通しのよい「うなぎの寝床」である。



上京の埋蔵文化財

藤原時平の邸宅「本院」の発掘調査

学問の神様として有名な北野天満宮には、毎年多くの参拝客が訪れます。この北野天満宮に祀られているのは誰かと問えば、多くの方が菅原道真と答えるでしょう。

道真は平安時代を代表する学者であり、醍醐天皇即位に伴い右大臣まで昇進した政治家ですが、道真の官位昇進に危機感を抱いた藤原氏や源氏の陰謀によって太宰府に左遷され、悲嘆に暮れながら生涯を終えました。この道真左遷の裏工作の中心人物として、後世まで悪評高いのが藤原時平です。

時平は関白太政大臣藤原基経の長男として生まれ、藤原氏の氏長者として若くして政権の首座に就きました。醍醐天皇の時代には左大臣として「延喜の治」を推進さ

せるなど、悪評とは対照的に政治的手腕の優れた人物だったようです。また、時平は「本院大臣（ほんいんのおとど）」とも呼ばれて

おり、時平が居住した邸宅は「本院」と称されていたことがわかっています。

「本院」の所在地ですが、拾芥抄「東京図」によれば左京一条二坊十二町にあったと記されており、現在の榎木町通りの北側、東堀川通りの東側一帯に相当します。平安京では中御門大路の北、堀川小路の東一町を占めており、南には

中御門大路を挟んで高陽院が造営された京内でも一等地にあたります。「大鏡」には「本院」の有名な逸話として、醍醐天皇と時平が示し合わせて当時の過差（過美賢沢なこと）を戒めた話が載せられています。わざと美麗な装束で参内する時平に醍醐天皇が退出を命じ、勅勘を被った時平は「本院」の門を固く閉ざして御簾の外にも



平安時代全景

出なかつたというものです。このような左大臣時平邸である「本院」は、当時を代表する邸第だつたと考えられます。

ところが、「本院」の実態については考古学的にはまったく謎といえます。昭和六二年度に試掘調査を一度行ない、園池の一部とみられる泥土層を確認しています。

この泥土層の時期は出土した土器から九世紀後半のものと考えられ、「本院」の南東部に園池が所在した可能性が高いことが知られるだけでした。今回、平成一六年二月から三月にかけてはじめて「本院」推定地南西部の発掘調査を実施しました。調査地は狭い範囲でしたが、平安時代中期の土器を多量に

包含する落ち込みを検出し、「本院」で使用されていた土器群を良好に確認することができたといえます。

出土した土器は非常に特殊なものが多く、当地域が普通の京内宅地とは異なる邸宅であったことを十分推測できるものでした。とくに、土師器と呼ばれる器は当時手



平安時代の土器



輸入陶磁器 白磁托

永年の信用
まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

本社 京都市中京区扇丸通三条下る 電話075(221)-4000
フリーダイヤル ☎0120-00-4200 <http://www.koekisha-kyoto.com>

◆ 葬儀式場 ◆

公益社北平ライトホール(堀川駅前) 京都市北区東堀原堀川東入敷 075(414)0420
公益社中央ライトホール(五条) 京都市東山区五条河原大和大路敷 075(551)5555
公益社南平ライトホール(堀川) 京都市南区堀川八条下る西側敷 075(662)0042
公益社宇治ライトホール(宇治駅前) 宇治市橋本町(文教大宇治)敷 0774(20)0042
公益社津波ライトホール(大津) 大津市朝日ヶ丘1丁目敷 075(523)0042



平安時代後期の井戸



平安時代後期の土器

づくねで製作されるのが一般的ですが、「本院」から出土した土器は陶器写しの回転を利用して作られたものばかりでした。同様の資料は累代の後院である冷然院れいぜんいんの調査でもまとまって出土しており、高級貴族邸宅で使用された特殊な

土器群として認識できません。また、緑釉陶器りよくつゆのたわの椀や黒色土器くろしきどまの硯などが出土しており、なかには中国からもたらされた白磁びやくしの「托たくこ」と呼ばれる貴重な器も見られます。托とは、お茶やお酒を持った椀を受ける皿で、白磁の托の出土は平

安京でもめずらしいことです。これらの出土遺物は、「本院」での優雅な生活を窺わせる資料となっています。

なお、時平は延喜九年（九〇九）に三九才の若さで亡くなり、撰せん関かん家は弟忠平流に継承されていきま

した。時平の子孫は繁栄せず、「本院」の伝領も明らかではありません。「中右記」によりまずと、平安時代後期には当町の北西隅に白河法皇龍臣である相模守藤原盛重さかみのかみふじむらもりの邸宅が所在したとされています。つまり、一二世紀初めには「本院」が衰退し、一般の貴族邸宅として分割されていたことになります。発掘調査でも一一世紀に穿たれた、深さ三mを超える方形井戸を発見しましたが、この井戸は「本院」に直接関わるものではなく、平安時代後期に分割されたときのものと考えられます。出土遺物も高級貴族邸宅での使用を示すものではなく、ごく一般的な土器ばかりであり、考古学的な見地からもこれらの推測を裏付けています。

また、中世の遺構では室町時代の円形井戸とともに、小礎石を伴う建物の一部と宅地の北側を区切る東西柵を発見しています。調査地のすぐ西にある堀川は材木を京



室町時代全景



室町時代の土器

都に運ぶための重要な水運であり、
祇園社ぎおんしゃに所属する堀川材木神人ほりかわのもくしにんが
材木座を形成していました。江戸
時代の文献ですが、『京羽二重』
でも東堀川通り二条北で材木類の
商職人をあげており、下京だけで
なく上京への物資搬入のための水

運として機能したと考えられます。
天正五年（一五八七）には太閤秀
吉が堀川の西方、一条と丸太町の
間に聚楽第を造営しました。聚楽
第の建築についてはフロイスが著
書『日本史』の中でその華麗な様
子を記録しており、造営に際して

は大量の建築物資が堀川を溯った
と想定できます。堀川が時代を通
じて重要な機能を果たしていたこ
とを示すとともに、堀川に面した
調査地周辺でも発掘調査で垣間見
たように活発な人々の生活が窺え
ます。

「本院」地域の考古学的調査は
まだ始まったばかりであり、まだ
まだ謎は多く残されています。今
後は狭い面積の調査でも継続して
行なうことによって、「本院」の
盛衰の実態を明らかにするととも
に、中世上京における堀川の様相
も解明していく必要があるでしょ
う。

(財)京都市埋蔵文化財研究所

網 伸也

学校法人 近畿予備校
医・歯・薬・獣医
看護医療・理系
の受験専門予備校。50年以上に渡る実績と信頼。
0120-399-475
〒602 京都市上京区丸太通今出川下る柳屋町475
TEL.075-441-8681(直) 地下鉄今出川駅⑨番出口南スグ
URL:http://www.elmel-gakuen.ac.jp

春の

上京茶会

平成十六年六月二〇日(日)

宝鏡寺門跡(習志野)を会場に
上京区文化振興会主催

今年の春の上京茶会は、上京区文化振興会と上京区役所の共催により六月二十日(日)宝鏡寺門跡で開催されました。

梅雨の晴れ間の中、人形の寺として知られる宝鏡寺の本堂縁側に朝顔を、書院客間に本席を設け、若千家家元の煎茶で、美味しいお茶がふるまわれました。

四百名の上京区民らが茶席の和やかなたずまひの中で二碗のお茶とともに心静かなひとときを過ごされました。



第10回 上京区民文化フェスティバル

会場/上京区民文化センター(東山) 主催/上京区文化振興会

去る二月二十九日、第十四回上京区民文化フェスティバルが文化センター(東山)で開催され、上京区民ふれあい事業実行委員会主催の上京区民文化振興会主催により開催されました。

オープニングに新野小学校合唱隊特別出演にババロアチを演奏、各団体による「ダンス」舞踊、フラダンス等の演目が次々と披露されました。

会場に訪れた観客は、華やかな衣装や素晴らしい歌声を上げるなど出演者の熱意に大いに楽しまれました。



憲法日曜

「映画のニュース」

五月の憲法日曜の取組として、五月二十六日に西陣区会館で上京区民ふれあい事業実行委員会主催、上京区地域研究推進協議会主催による映画「アカシヤの道」が上映されました。

この映画は「福祉・家族の愛」をテーマに、奥平家の歴史を扱った介護の話題を若い娘の視点から描いており、母と娘の葛藤が深く伝わってきます。

上映後まで興味がままならずと続いていた「二百名」の目標に、映画を通じて家族の絆の大切さを多くの人に理解いただくことができました。大盛況のうちに上映会となりました。

ガーデニング教室

三月九日ルネオ都通川に於いて、「花工房」白居社長を講師に迎えてガーデニング教室が開催されました。福祉園芸とペットボトルのリサイクル利用の講義の後、ペットボトルを利用して水栽培による花の寄せ植えをしました。五十名を超える参加者の熱心も高く、熱心な質問が飛びかう活気ある教室となりました。



春休み特別企画 「親子」ふれあい菓子教室



三月二十五日に親子で楽しむ「親子ふれあい菓子教室」が「花工房」にて上京区文化振興会と上京区役所の主催により催されました。石原社長のお話と資料製の見学の後、同社菓子職人の指導のもと季節の生菓子作りに取り組みました。春休みからの親子でなごやかな会話がありました。

特別ウェディングプラン
40名様88000円
10万円プレゼント

宴会・婚礼・会議 ぐつろぎ
宿泊・レストラン ¥3,500(税別)



ホテル ルビノ 京都堀川

〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町
TEL 075-432-6161代 FAX 075-432-6160 <http://www.rubino.gr.jp/>



「上京史蹟と文化」は上京区役所まちづくり推進課で販売致しております (TEL 441 0111)

花にまつわるエピソード…
季節も添えて演出します。



京都店 京都市中京区丸太町下ル
TEL/FAX 075-257-8788
長岡店 長岡京市丁西ヶ丘南西
TEL/FAX 075-857-0187
滋賀店 大津市東区 日ヶ崎町南
TEL/FAX 077-545-2887

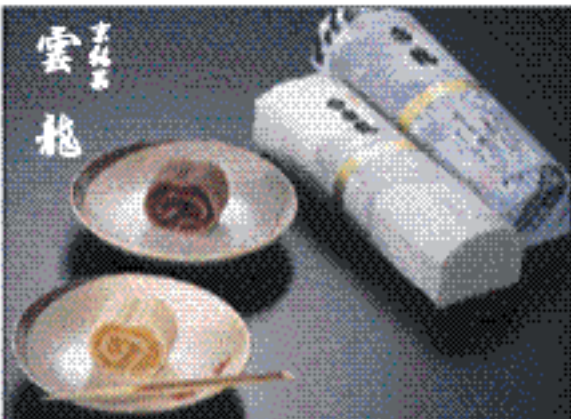
心こもった贈り物 Flower Gift.
～ 花束 アレンジメント グリーンバスケット スタンド花 etc. ～
フワフワアレンジメント教室 開催中!!

本店 京都市上京区丸太町下ル TEL.075-414-8700代 FAX.075-414-7787
フリーダイヤル 0120-46-8700 URL:<http://www.hanakobo.co.jp> 本店2FにてCafeも営業しております。



創立以来七〇年に
わたって、
和やかな家庭的な
雰囲気にもまれつつ
教育者としての
本流をめぐして、
保育を続けて
参りました。
幼児たちは
楽しい遊びを通して、
人生に必要な生きる
力のすべてを手に入れます。

学校法人 北野幼稚園
京都市上京区御所前一条下ル (北野天神宮/バス下車南100m)
TEL.463-0111代
http://homepage3.nifty.com/kyotokiten_k/



京都吉野山 宝光寺 宝徳院 御願所
六甲子 俵屋吉富

本店 京都・室町三丁目 電話 (075) 22111代
丸太店 京都・丸太三丁目 電話 (075) 21011代

安全真話

安心のために。伝えたいのは「真実の話」です。



サン・クロレラは日本農産物検査法第1418号、
水産農産物検査法第1022号に適合しています。

食品の安全性に対する「神話」が崩れだしている現在…。消費者の首振り目が増える中で、私たちはあえて伝えたいことがあります。創業以来、品質にこだわり続けたサン・クロレラは「安全」に対する厳しさを知っているということ。その結晶のひとつが「サン・クロレラ」。すべてを自社責任のもとに開発から製造まで管理し、GMP®に準じた製造工場で厳重な検査のもとに生産しています。さらにお届けに関しても自社グループにより直接お客様のお手元へ。製品の正しいご理解と安心してご利用いただくためのアフターフォローも行っています。おかげさまで30年以上にわたってご愛顧いただき、お客様は日本だけでなく世界の国々へと広がっています。もし品質にわずかな不安でもあれば、これほど長い間にわたり愛され続けることはなかったでしょう。安全のために努力を惜しまないという「真実」。これこそがお客様の求める「安全真話」に応えられる理由です。

※ 製造品の製造管理及び品質管理に関する基準



サン・クロレラは日本農産物に認定されています。
財団法人日本農産・水産食品協会の認定マークは、品目別規格基準に基づき、
協会の厳正な検査をパスした製品に対してのみその表示が許可されたものです。
サン・クロレラの製造工場はJAS09001の認証を取得しています。